

## （８）<sup>へつぎほんまち</sup>戸次本町のまちなみと祭礼にみる歴史的風致

### 1) はじめに

戸次本町は日向街道沿いにあり、大野川の通船の港が設けられるなど交通の重要地点に位置しており、江戸時代には<sup>うすき</sup>臼杵藩の「在町」として発展し、明治以降も<sup>ようさんぎょう</sup>養蚕業や<sup>ほあし</sup>帆足家が営む酒造業により栄え、<sup>たのむらちくでん</sup>田野村竹田、<sup>らいさんよう</sup>頼山陽など多くの文人が集まり、現在も歴史的なまちなみが良く残っている。大庄屋帆足家は酒造業を営み、分家住宅とともにその住宅が国の有形文化財に登録され、本家住宅に隣接する酒造蔵は市の有形文化財に指定されている。八幡神社は大友氏創建といわれ、戸次本町の帆足家が神社造営に力を注いできたが、その祭礼は戸次本町の氏子に支えられて今につづいている。



戸次本町のまちなみ

### 2) 建造物

#### 八幡神社

八幡神社は、境内にある昭和14年(1939)<sup>ほあしごさく</sup>帆足後作寄進の「<sup>おすや</sup>御素屋改築記念碑」に建築の記載があり昭和14年以前の建築であることが分かる。<sup>さんけんしやながれづくり</sup>三間社流造である。本殿は<sup>すやね</sup>素屋根がかかっており、拝殿は<sup>いりもやづくりどうぼんぶき</sup>入母屋造銅板葺、<sup>ちどりほふ</sup>千鳥破風付、<sup>からほふ</sup>唐破風の向拝一間が設けられる。コンクリート製の基壇上に建てられているが、部材の状態から本殿素屋根と同じ昭和14年(1939)の建築もしくは改築と考えられる。



八幡神社拝殿

#### <sup>ほあし</sup>帆足本家酒造蔵【市指定有形文化財】

帆足本家酒造蔵は、棟札より、明治42年(1909)の建築である。2階建ての仕込蔵・<sup>しゅぼしつ</sup>酒母室は、トラス構造の<sup>ようごやぐみ</sup>洋小屋組を導入している。大庄屋であった帆足本家が江戸時代末期から明治時代に順次、建築した木造一部二階建<sup>せん</sup>棧瓦葺の建物群である。



帆足本家酒造蔵

#### 金子家住宅

##### (旧呉服店万太・旧戸次郵便局)

金子家住宅は、鶴崎にあった熊本藩主細川家別宅を戸次に移したと伝えられる。『大分県の近代和風建築』(平成25年(2013))によれば、建築年は、大正2年(1913)で式台付玄関がある武家屋敷風の建物である。八幡神社春季祭礼時に神輿が入る部屋は他の部屋より一段低い。



金子家住宅(旧呉服店万太・旧戸次郵便局)

みょうしょうじ  
**妙正寺**

妙正寺は、入母屋造本瓦葺、向拝一間付で臼杵藩の<sup>うすき</sup>大工、高橋家4代<sup>だんない</sup>団内の作とされ、『戸次本町街なみ景観形成計画報告書』(平成13年(2001))によれば文政10年(1827)の建築である。



妙正寺

ほあしきう せんしやうかく  
**旧帆足杏雨宅 擅勝閣**

旧帆足杏雨宅は、木造入母屋造棧瓦葺の二階建て住宅で、『戸次本町街なみ景観形成計画報告書』(平成13年(2001))によれば安政3年(1856)の建築であり、南画家の帆足杏雨の旧宅であった。



旧帆足杏雨宅 擅勝閣

**旧二十三銀行出張所**

旧二十三銀行出張所は、木造入母屋造棧瓦葺二階建てで、『戸次本町街なみ景観形成計画報告書』(平成13年(2001))によれば明治33年(1900)に陶器店として建築された建物で、その後一時旧二十三銀行となった。



旧二十三銀行出張所

**藤川金物店(旧呉服店森屋)**

藤川金物店は、明治元年(1867)の建築で木造入母屋造棧瓦葺二階建てで、『戸次本町街なみ景観形成計画報告書』(平成13年(2001))によれば天保元年(1830)に呉服店として開業した。昭和30年代に大きな改築を行っているが、洪水時に天井板を開閉して呉服店の商品を2階に上げられるようにする仕掛けが残っている。



藤川金物店 (旧呉服店森屋)

ふじみろう  
**旧富士見楼**

旧富士見楼は、<sup>かわらぶきよせむねづく</sup>瓦葺寄棟造の3階建て、切妻屋根の2階からなり、由布岳(別名:豊後富士)が眺望できることから名付けられた。かつては、料亭として使用されており、『大分県の近代和風建築』(平成25年(2013))によれば、明治2年(1869)の建築である。



旧富士見楼

### 帆足家本家住宅「富春館」【登録有形文化財】

帆足本家住宅は、臼杵藩の在町であった大分市南部の戸次へつぎにあり、近世には大庄屋を務めた。主屋は『戸次本町街なみ景観形成計画報告書』(平成13年(2001))によれば慶応元年(1865)に建築され、「富春館」と称された。木造二階建一部平屋、入母屋造、いりもや 棧瓦葺で、南側中央に式台しきだい玄関を設け、西側に一段高い座敷、北側に仏間、東側に居室を配する。床の間の造りなど本家主屋として意匠、材料、技術共に秀でる。この他、宝蔵、中門、塀など江戸末期から昭和初期の建造物7件が登録文化財となっている。



帆足家本家住宅 富春館

### 帆足家分家住宅「松石不老館」【登録有形文化財】

帆足家分家住宅は、主屋は『戸次本町街なみ景観形成計画報告書』(平成13年(2001))によれば明治39年(1906)に建築され、「松石不老館」と称された。敷地東側の通りに面し、通り土間をもつ商家建築の形式で、北側に座敷や次の間を配して接客空間とする。接客部分の各部屋の意匠は優れ、近代の大工技術の高さがうかがえる。この他、新座敷、質蔵、塀など明治中期に建てられた建造物10件も登録文化財となっている。



帆足家分家住宅 松石不老館

### 旧帆足家隠居別荘五梅園

旧帆足家隠居別荘五梅園は、『戸次本町街なみ景観形成計画報告書』(平成13年(2001))によれば昭和4年(1929)の建築で、入母屋造本瓦葺二階建てで帆足本家、12代帆足俊作の隠居別荘として建てられた。



旧帆足家隠居別荘五梅園

### 旧呉服店塩屋

旧呉服店塩屋は、『戸次本町街なみ景観形成計画報告書』(平成13年(2001))によれば大正10年(1921)の建築で、入母屋造棧瓦葺二階建てで、昭和25年(1950)まで呉服店を営んでいた。太平洋戦争中、近くに建設された戸次飛行場の航空兵の宿舎となっていた。



旧呉服店塩屋



## 旧平岡酒場

旧平岡酒場は、『戸次本町街なみ景観形成計画報告書』（平成13年(2001)）によれば明治18年(1885)の建築で、切妻造 棧瓦葺二階建て、造り酒屋として創業し、昭和初期には煙草や塩を販売していた。



旧平岡酒場

## 旧呉服店万力屋

旧呉服店万力屋は、『戸次本町街なみ景観形成計画報告書』（平成13年(2001)）によれば明治20年(1887)頃の建築で木造平屋建、さんかわらぶき きりつまづく棧瓦葺、切妻造。呉服店として昭和初期まで営業していた。平成21年(2009)に改築を行い住宅となった。



旧呉服店万力屋

## 3) 活動

### 3) -1 八幡神社春季祭礼

明治30年(1897)の『神社慣例』には祭礼日が旧暦3月7日とあり、現在は毎年4月第1日曜日に行われている。

祭礼日のおよそ1週間前、午後7時半頃に地区の公民館に住民が集まり、祭礼の準備・練習をはじめる。小学生から中学生およそ20名が地域の方々より太鼓・鉦の指導を受け練習する。小学校低学年は主に太鼓と鉦を担当し、笛は指導にあっている大人たちが担当する。また、練習会場では地域の方々によって、祭りで神輿が立ち寄った家々に配る「御幣」を作る。ここでも若い住民が「御幣」の作り方を高齢の方より指導を受ける。「御幣」とは、細い竹に切り込みを入れ、そこに形を整えた紙を差しこんだものである。

祭礼日当日午前9時頃に神事が始まり、9時半に神輿が神社から神輿・子供太鼓山車共にお旅所を目指し出発する。戸次本町の旧二十三銀行出張所、旧帆足家隠居別荘五梅園、帆足家分家住宅松石不老館、藤川金物店、旧帆足杏雨宅擅勝閣、帆足家本家住宅富春館、帆足本家酒造蔵、旧富士見楼、旧呉服店塩屋、金子家住宅、旧呉服店万力屋、妙正寺、旧平岡酒場の前を巡幸する。昼に「大南老人いこいの家」に到着し、



子供太鼓の練習



御幣作り



神輿の出立

婦人会によって用意された食事やお菓子が出され、祭りに参加する大人・子供はここで昼食をとる。

昼食を終えると子供達により太鼓の演奏がはじまり祭りが再開され神輿の前に獅子が先行する。神輿が個人宅に立ち寄り、神職が祝詞をあげ、その後初穂料<sup>はつほりょう</sup>が住人から納められる。住人には「御幣」が一本渡される。御幣はその家の神棚などにあげられ、次の祭礼まで祀られる。

神輿がかつて戸次郵便局であり明治時代に鶴崎から移設されたという「金子家住宅」に到着すると獅子が先に玄関すぐの部屋に入り、神輿がそれにつづき神輿を安置する。部屋は他の部屋より一段低く造られており、神輿が入れやすくまた神棚が設けられている。先ほどと同じように神職により祝詞があげられ、御幣が渡され、そのまま玄関の神棚にあげられる。

神輿の担ぎ手には立ち寄る家ごとに飲み物や軽食がふるまわれ、各所に笛を洗うための水がバケツなどに用意されている。



先行する獅子



神輿につづく子供太鼓山車



金子家住宅に安置された神輿



金子家住宅への立ち寄り



御幣をわたす



御幣





菓子の振る舞い



笛を洗う水

「旧富士見楼」では、唯一玄関に入ろうとする神輿を押し留め、入らせないように妨害をする。妨害するのは主に7名ほどの男性で、数回神輿を妨害した後、玄関への進入を許す。その後は他と同じように祝詞があげられ、御幣が渡される。



旧富士見楼での神輿の妨害



旧富士見楼に神輿が入る

「帆足家分家住宅」に神輿が到着し、金子家住宅と同じように玄関すぐの部屋に神輿が入る。部屋は他の部屋より一段低く造られており、神輿が入れやすくまた神棚が設けられている。神輿と山車が中戸次地区を巡行し、八幡神社へ還幸する。



帆足家分家への到着

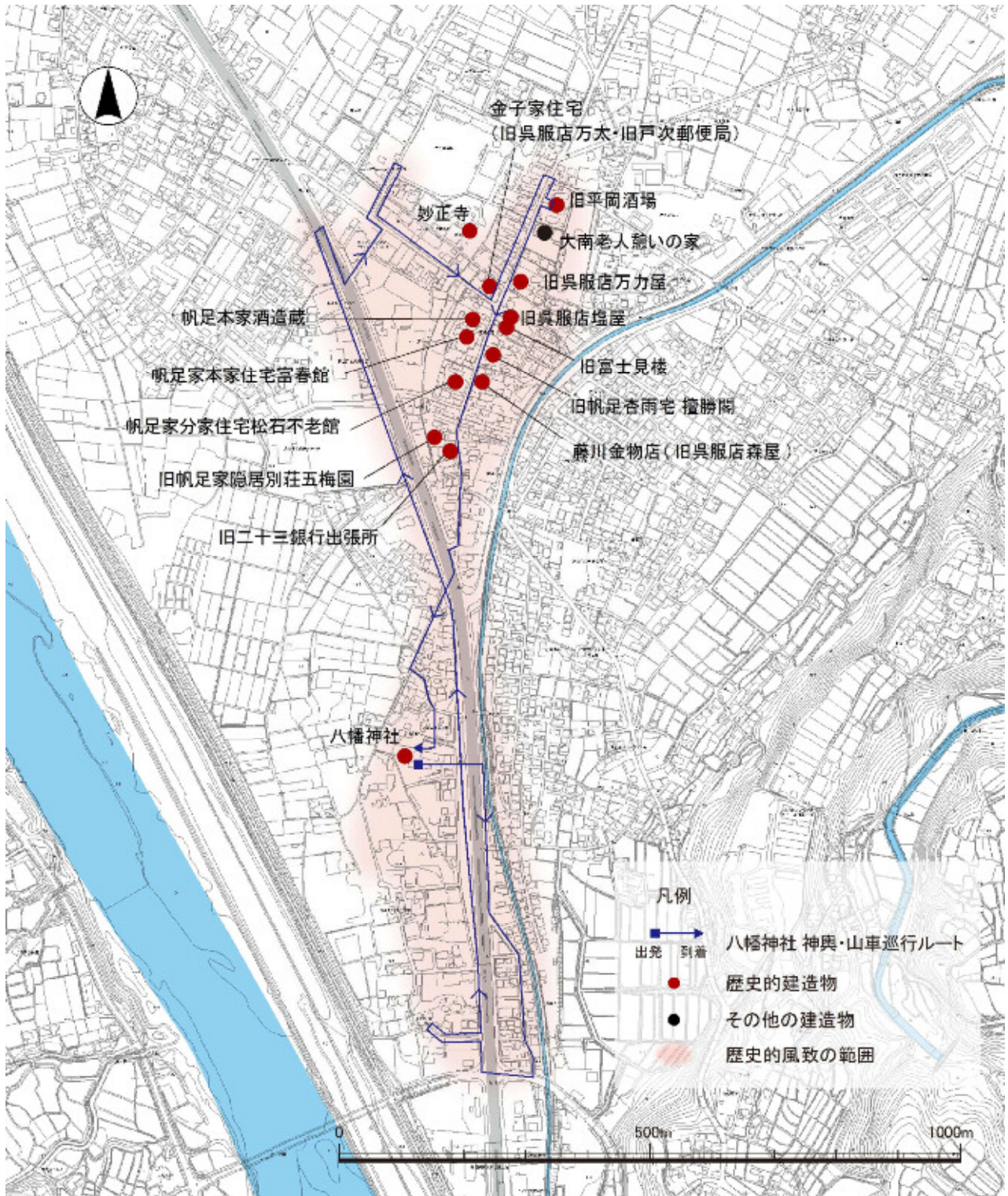


帆足家分家住宅に入った神輿



#### 4) まとめ

戸次地区は大分市内で最も良好な歴史的なまちなみが残っており、江戸時代の在町<sup>ざいまち</sup>としての歴史と伝統を受け継いでいる。このまちなみを守り、次世代へつなげていこうとする地元住民の熱意のもとで、伝統的な祭礼が守り伝えられており、まちなみと一体となった歴史的風致が形成されている。



戸次本町の歴史的風致範囲